

南九州大学の沿革と教員養成の目標

【大学全体】

21世紀の「知識基盤社会」において教育改革の必要性が認識される中、その世界的な動向は、カリキュラム改革から教員養成改革へとシフトしてきている。中央教育審議会答申(平成27年12月21日)「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、知識基盤社会の進展・社会の急速な変化に加え、教職員の急速な世代交代など多くの課題が指摘してある。大学における教員養成は、生涯を通じた教員としての成長を視野に、養成段階から採用・現場での育成まで一環とした養成が重要視されている。そのためにも、教員として基本となる資質や教科専門性の向上を図る必要があると考えられる。

その様な状況あって、本学では豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境のなかで、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成するとともに、本学の理念である「食・緑・人」に関する基礎的・応用的研究を進め、専門分野において社会に貢献できる人材を養成することを目指している。

さらに、小・中・高等学校の新学習指導要領を念頭に、育成すべき資質・能力を身に付けさせるために必要な ICT 活用・グループワークの導入・プレゼンテーションの機会など多様な教育方法を講義に採り入れ、教員の育成に努めている。

本学は、昭和42年(1967年)に園芸学部(園芸学科、造園学科)の単科大学として設立され、時代のニーズに呼応した改組新設を経て、現在は環境園芸学部(環境園芸学科)、健康栄養学部(管理栄養学科、食品開発科学科)、人間発達学部(子ども教育学科)、園芸学・食品科学研究科(園芸学専攻、食品科学専攻)の3学部4学科及び1研究科となっている。これまで11,700人以上の卒業生を送り出し、教員免許取得者は約2,000人(実人数)で、そのうち約350人が幼稚園、小学校、中学校(理科)、高校(理科・農業)教員として全国で活躍している。

【学部学科・大学院】

本学は、3学部4学科1研究科に13の教職課程を設けている。以下に学部学科・大学院ごとの教職課程の目標及び各段階における到達目標を記する。

●人間発達学部子ども教育学科（認定課程：幼一種免、小一種免、特支一種免（知・肢・病））

子ども教育学科は、教員養成を主たる目的とする学科である。子ども教育学科は、乳幼児期から児童期の子どもを対象として、幅広く深い見識をもった子どもの専門家（子どもスペシャリスト）として活躍できる教員の養成を目指している。環境園芸学部・健康栄養学部と連携しながら、地域や自然環境に関する広い見識を持ち、乳幼児期から児童期の子どもを対象とした基礎的理解及びその成長発達についての深い理解をもって教育学の専門的知識と技能を修得し、地域での教育力の向上と自然環境教育を实践しうる幼稚園、小学校、特別支援学校教諭を養成する。

【子ども教育学科 幼稚園教諭免許】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | <p>教養科目や専門基礎科目を履修することを通して、大学における学びの基礎を培うとともに、社会人・保育者としての基盤を形成する。</p> <p>教育や保育の基本について理解を深めるとともに子どもの豊かな育ちを目指した地域の取り組みに関わることを通して、保育者になることについて多角的に考察し、主体的に学び続ける態度を形成する。</p> |
| | 後期 | <p>子どもや子どもの発達、特別支援教育に関する基本的な理解を深めるとともに、教育におけるカリキュラムの意義を知り、子どもの発達過程に応じた指導計画作成方法を理解する。同時に、表現分野における教育実践力の基礎を培う。</p> |
| 2年次 | 前期 | <p>領域及び保育内容の指導法に関する科目の履修を通じ、保育は「養護」と「教育」が一体となって展開すること、遊びを通じた総合的な指導が基本であることを理解するとともに、子ども一人一人に応じた支援のあり方について考察を深める。</p> <p>「観察実習」を通して、一人一人の子ども、保育者と子どもとのかかわり、子ども相互の関係、保育者の援助のあり方等について理解を深め、教育実習に向けた準備と実習姿勢の醸成を図るとともに、保育者の仕事への意欲や関心を持つ。</p> |
| | 後期 | <p>領域及び保育内容の指導法に関する科目の履修を通じ、保育内容5領域を総合的に捉える視点を得るとともに、保育における環境の重要性や、子どもの人間関係について理解・考察を深める。</p> |
| 3年次 | 前期 | <p>幼児理解や教育相談の理論及び方法に関する科目等の履修を通じ、子どもや子どもを取り巻く社会全体の実態の理解を深め、子どもの内面を理解しながら援助ができる実践的力量を培う。</p> <p>教育実習事前指導を通して、実習中の心構えや服務に関する理解、指導案作成や模擬保育の実践などの具体的体験、反省に基づいた保育改善プロセスなどを学び、教育実習の準備を整える。</p> |
| | 後期 | <p>多様な家庭のあり方や子育て家庭が抱える課題、現代社会における子育ての課題を理解し、多方面からの支援の必要性について理解・考察を深めるとともに、保育者の役割や専門性について考察を深める。</p> <p>教育実習を通して、子ども理解、保育者の援助等について実践的な学びを深め、保育者として活躍する自分のイメージを描くことができるようにする。事後指導を通して、自らの課題を発見し、改善していく姿勢を持つ。</p> |
| 4年次 | 前期 | <p>保育・幼児教育に関連する事象について、各自の関心や問題意識に応じ、多角的に考察を深めるとともに実践的力量を培う。</p> |
| | 後期 | <p>保育者になるにあたっての自己課題を確認し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。継続して自己研鑽が求められる保育者としての責任を自覚する。</p> |

【子ども教育学科 小学校教諭免許教諭】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目や専門基礎科目を履修することを通して、大学における学びの基礎を培うとともに、社会人・教員として資質向上に必要な基礎知識や技術を習得する。 ・教育についての基礎的理解を図る。 ・教職に関する専門基礎の理解を図る。 ・自らのキャリア形成を展望する。 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目を履修して、教員の資質向上に必要な基礎知識や技術を修得する。 ・教育についての基礎的理解を図る。 ・介護体験を通して、人とのかかわり、人を支援するために必要なことについての理解を深める。 ・大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得する。 |
| 2年次 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・教科に関する専門的事項の理解を図る。 ・観察実習を通して、教員の視点に立って子どもと教育現場を体験的に理解し、教育実習に向けた準備と実習姿勢の醸成を図るとともに、教員の仕事への意欲や関心を持つ。 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・教科に関する専門的事項の理解を図る。 ・教科の指導法の理解を図る。 ・一人ひとりの自己理解を促し、それを踏まえた仕事・職業理解を行い、自身のキャリアについてデザインする資質能力を習得させる。 ・大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを学び、自己の研究課題の見通しをもつ。 |
| 3年次 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科に関する専門的事項の理解を図る。 ・教科の指導法の理解を図る。 ・教育実習事前指導を通して、実習中の心構えやサービスに関する理解、指導案作成や模擬授業の実践などの具体的体験、反省に基づいた保育改善プロセスなどを学び、教育実習の準備を整える。 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科に関する専門的事項の理解を図る。 ・教科の指導法の理解を図る。 ・道徳、教育の方法及び技術、教育相談の理論と指導法を習得する。 ・教育実習を通じて、教材研究能力だけでなく、子ども理解、生徒指導等の実践力を養い、教職として活躍する自分のイメージを描くことができるようにする。また、事後指導を通して、自らの課題を発見し、改善していく姿勢を持つ。 |
| 4年次 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間、特別活動・生徒指導などの理論と方法についての理解を図る。 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での教育実習で学んだことを活用して、教材研究能力だけでなく、子ども理解、生徒指導等の実践力を養う。 ・「教職実践演習」の授業を通して、大学4年間にわたる専門的な科目履修や教育実習等を通して修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに補完・深化・統合する。継続して自己研鑽が求められる教員としての責任を自覚する。 |

【子ども教育学科 特別支援学校教諭免許】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | 教養科目や専門基礎科目を履修することを通して、大学における学びの基礎を培うとともに、社会人・教員としての基盤を形成する。障害のある幼児・児童の基礎的理解やヒトの進化や脳機能の構造などについて広く学び、脳の機能不全などにより発生する諸障害を理解する科学的基盤を形成する。 |
| | 後期 | 特別支援教育の歴史や制度の変遷過程における必然性などに気づき、今後の制度や教育体制などについて考えていく基礎を養う。障害を巡る今日的課題について、自ら調べたり報告したりする経験を通じて、問題の所在を整理し、課題解決の方策を探していく経験を積む。 |
| 2年次 | 前期 | 教職基礎科目や専門基礎科目の履修を通じて、より具体的な対象の理解や支援方策の検討の方法について学び、今後の学習の見通しを持つ。知的障害の種別や障害発生のメカニズム、それぞれに基づいた支援計画の立案などを具体的に学ぶとともに特別支援学校の全体像を把握する。 |
| | 後期 | 肢体不自由や病弱児の心理や病理などを具体的に学び、障害の発生機序や障害特性、障害によって二次的に生じてくる困難などについて幅広く学習する。聴覚障害や視覚障害の教育全般について学習を深めることを通して、免許種別以外の障害理解を深め、重複障害や障害種別を超えた就学などへの対応力を育成する。 |
| 3年次 | 前期 | 肢体不自由や病弱児の教育課程や指導方法等について具体的に学ぶことを通して、様々な特別支援学校における対応力を育成する。LD・ADHD や自閉症などの発達障害について、アセスメントを通じた科学的なアプローチを理解することや、根拠に基づいた支援方策の導き方などを学ぶことを通して、地域のセンター的機能で求められる能力の基盤を育成する。 |
| | 後期 | 学習指導要領の詳しい理解と教育課程策定の手続き、指導計画の策定、授業計画の立案などを具体的に学ぶことを通して、教育実習の基礎的能力を形成する。観察実習を通して、教育実習を行う学校の全体像を把握したり、配属予定の学級の児童等の実態把握をしたりするなど、教育実習に向けた準備と実習姿勢の醸成を図る。 |
| 4年次 | 前期 | 特別支援学校教育実習事前指導を通して、実習中の心構えやサービスに関する理解、指導案作成や模擬授業の実践などの具体的体験や、反省に基づいた授業改善プロセスなどを学び、教育実習の準備を整える。 |
| | 後期 | 教職課程の総まとめとしての特別支援学校教育実習を通して、実践的な学びを深め、教職として活躍する自分のイメージを描くことができるようにする。事後指導を通して、自らの課題を発見し、改善していく姿勢を持ったり、継続して自己研鑽したりする教師としての責任を自覚する。 |

- 環境園芸学部 環境園芸学科（認定課程：中一種免（理科）、高一種免（理科）、高一種免（農業））
環境園芸学科は、「環境科学」「生命科学」「生物資源科学」を3本の柱として学習・研究し、食糧問題や環境問題などの今日の重要課題に 대응していけるような専門家の育成を目指している。環境園芸学科の教職課程は、高い専門性と実践力を持つ中学校（理科）、高校（理科、農業）教諭を養成する。
- 健康栄養学部 食品開発科学科（中一種免（理科）、高一種免（理科）、高一種免（農業））
食品開発科学科は、食品の安全性・機能性の分析、食品・食材の開発に関する専門家の育成を目指している。食についての高い専門性を持ち、実験や実習の面白さに生徒を誘えるような魅力ある中学校（理科）、高校（理科、農業）教諭を養成する。

【環境園芸学科・食品開発科学科 中一種免（理科）、高一種免（理科）】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | 教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技能を修得する。教養科目及び専門基礎科目として開講される理科の教科に関する科目（別表1及び3掲載の必須講義科目：4科目8単位）を受講し、理科教科専門性の基礎を形成する。また、今学期開講の教職に関する科目（別表6及び7掲載科目）の受講及び各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。 |
| | 後期 | 教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技能を修得することを目指す。教養科目及び専門基礎科目として開講される理科の教科に関する科目（別表1及び3掲載の必須講義科目：4科目8単位）を受講し、理科教科領域の専門性の基礎を形成する。今学期開講の教職に関する科目の受講及び各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。また、教職課程資格審査に向けた各自の学修を行う。 |
| 2年次 | 前期 | 前年度に理科の教科に関する科目（8科目16単位）を修得を望む。今後は、実験科目及び自専攻開設の教科に関する科目を受講することで、理科教科領域の専門性を高める。これと同時に教職に関する科目を受講することで、教職への理解や教育に関する基礎的知識を修得する。また、教職課程資格審査を受験し、教職課程受講資格を取得する。 |
| | 後期 | 前期に引き続き、実験科目及び自専攻の開講科目を受講することで、理科教科領域の専門性を高める。これと同時に教職に関する科目を受講することで、教職への理解や教育に関する基礎的知識を修得する。 |
| 3年次 | 前期 | 前年度までに理科の教科教育に関する科目の相当程度を修得している。また、教職に関する科目も基礎的な科目は修得している。今期は、未履修の理科教科領域科目及び教職に関する科目を履修する。そして、これら科目を基礎とし統合・発展させる形で、「中等教科教育法・理科Ⅰ」及び「中等教科教育法・理科Ⅱ」を受講し理科の指導法の基礎知識を修得する。また、中学校免許希望者は介護等体験も受講する。 |
| | 後期 | 前期を継承する形で、通年開設科目である「中等教科教育法・理科Ⅰ」及び「中等教科教育法・理科Ⅱ」を受講し理科の指導法の基礎知識を修得する。さらに、教育実習受講規定の条件を満たすと同時に、「教育実習事前事後指導」を受講し、4年次に実施される教育実習に備える。また、所属研究室が決定するので、研究室での研究を通して教科の専門性のさらなる発展につなげる。 |
| 4年次 | 前期 | 教育実習を履修する。これまでの学修の成果を実際の教育現場にて試すことで、教職への適性を考慮すると同時に、教職に就く上で必要な実践的な力の確認と課題の検討を行う。 |
| | 後期 | 教職実践演習を受講する。教職実践演習は、これまでの教職課程の総まとめとして、大学における学修を取りまとめ、教育実習などで確認した各自の課題解決に向けた学修を行う。また、卒業研究を行うことで、教科専門性を確かなものとする。 |

【環境園芸学科・食品開発科学科 高等学校教諭農業科】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | 教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技術を修得する。専門基礎科目として開講される農業科の教科に関する科目（別表2及び4掲載の科目）を受講し、農業科教科領域の専門性の基礎を形成する。また、今学期開講の教職に関する科目（別表6及び7掲載科目）の受講及び各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。 |
| | 後期 | 教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技術を修得することを目指す。専門基礎科目として開講される農業科の教科に関する科目を受講し、農業科教科領域の専門性の基礎を形成する。また、今学期開講の教職に関する科目の受講及び各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。また、教職課程資格審査に向けた各自の学修を行う。 |
| 2年次 | 前期 | 前年度から継続して農業科の教科に関する科目を履修する。2年次までに必須科目（3年次開講は除く）を履修することで、農業科教科領域の専門性を高める。これと同時に教職に関する科目を受講することで、教職への理解や教育に関する基礎的知識を修得する。また、教職課程資格審査を受験し、教職課程受講資格を取得する。 |
| | 後期 | 前期に引き続き、前年度から継続して農業科の教科に関する科目を履修する。2年次までに必須科目（3年次開講は除く）を履修することで、農業科教科領域の専門性を高める。これと同時に教職に関する科目を受講することで、教職への理解や教育に関する基礎的知識を修得する。 |
| 3年次 | 前期 | 前年度までに農業教科領域科目の主要科目を修得している。また、教職に関する科目も基礎的な科目は修得している。今期は、教科教育については、自専攻開設の教科に関する科目を受講し、教科教育の専門性を高める。また、未履修の教職に関する科目を履修する。そして、これら科目を基礎とし統合・発展させる形で、「中等教科教育法・農業」を受講し農業科の指導法の基礎知識を修得する。 |
| | 後期 | 前期を継承する形で、通年開設科目である「中等教科教育法・農業」を受講し農業科の指導法の基礎知識を修得する。さらに、教育実習受講規定の条件を満たすと同時に、「教育実習事前事後指導」を受講し、4年次に実施される教育実習に備える。また、所属研究室が決定するので、研究室での研究を通して教科の専門性のさらなる発展につなげる。 |
| 4年次 | 前期 | 教育実習を履修する。これまでの学修の成果を実際の教育現場にて試すことで、教職への適性を考慮すると同時に、教職に就く上で必要な実践的力の確認と課題の検討を行う。 |
| | 後期 | 教職実践演習を受講する。教職実践演習は、これまでの教職課程の総まとめとして、大学における学修を取りまとめ、教育実習などで確認した各自の課題解決に向けた学修を行う。また、卒業研究を行うことで、教科専門性を確かなものとする。 |

●健康栄養学部 管理栄養学科（栄教一種免）

管理栄養学科は、高度な知識を身につけた栄養の専門家であると同時に栄養カウンセリングを行えるような人間性豊かな管理栄養士の育成を目指している。子どもの食育が教育の重要な課題となっている今日、発達途上の子どもの健康管理に詳しい栄養教諭が求められている。管理栄養学科の教職課程は、食と健康についての高い専門性と子どもの心身の発達についての深い理解を持つ栄養教諭を養成する。

【管理栄養学科 栄養教諭】

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | 教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技術を修得する。これに加えて、今学期開講の教職に関する科目（別表8掲載科目）を受講し教職の基礎知識を学ぶ。また、各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。 |
| | 後期 | 前期から継続して教養科目及び専門基礎科目を履修することで、大学4年間の学修の基礎となる知識・技術を修得する。これに加えて、今学期開講の教職に関する科目（別表8掲載科目）を受講し教職の基礎知識を学ぶ。各種指導により、進路検討を行い教職への意欲を形成する。 また、教職課程資格審査に向けた各自の学修を行うことで、教職課程履修の基礎的な資質を形成するものである。 |
| 2年次 | 前期 | 管理栄養士養成課程履修要項に基づき栄養学の基礎知識の学修を進める。同時に、教職に関する科目の学修を継続して行う。 また、教職課程資格審査を受験し、教職課程受講資格を取得する。 |
| | 後期 | 管理栄養士養成課程履修要項に基づき栄養学の基礎知識の学修を進める。同時に、教職に関する科目の学修を継続して行う。 |
| 3年次 | 前期 | 管理栄養士養成課程履修要項に基づき栄養学の基礎知識の学修を進める。同時に、教職に関する科目の学修を継続して行う。 研究室に所属し、当該研究室での専門的な学修を栄養教諭として活用できるようにする。 |
| | 後期 | 前期修了までに受講生は、管理栄養士養成課程履修要項に基づき栄養学の基礎知識の学修および教職に関する科目の学修をほぼ終えている。「学校食教育論」を受講し栄養教諭としての専門知識を学ぶ。さらに、これまでの栄養学及び教職に関する学修を統合・発展させ、栄養教諭としての指導力の基礎を獲得する。 |
| 4年次 | 前期 | 「卒業研究」または「専攻演習」を始めることで専門分野の基礎的・専門的な学修の総括をはじめめる。教育実習を履修する。これまでの学修の成果を実際の教育現場にて試すことで、教職への適性を考慮すると同時に、教職に就く上で必要な実践的な力の確認と課題の検討を行う。 |
| | 後期 | 教職実践演習を受講する。教職実践演習は、これまでの教職課程の総まとめとして、大学における学修を取りまとめ、教育実習などで確認した各自の課題解決に向けた学修を行う。 また、「卒業研究」または「専攻演習」を行うことで、栄養学の専門性を確かなものとする。 |